

資料2-3

「令和6年度 認知症施策の推進に係る
東海北陸管内6県意見交換会」
(令和6年9月3日)

令和6年度 認知症施策の推進に係る東海北陸管内6県意見交換会資料

令和6年度
認知症施策の推進に係る
市町村支援に向けた取組
(岐阜県)

令和6年9月3日

岐阜県健康福祉部高齢福祉課

同 医療福祉連携推進課

市町村の現状と県の取組（事業等）	評価・課題
<p>① 認知症初期集中支援 【現状】 R5.3) 43チーム166人に訪問⇒ R6.3)41チーム203人に訪問。 チーム員の連携進んでいる。 チーム員会議開催数（R4）147回⇒（R5）149回 【県の取組み（事業等）】 ・認知症初期集中支援チーム員フォローアップ研修 [Web研修(一部ハイブリッド形式)] ・初期集中支援に対して、アドバイザー派遣 [集合研修]</p>	<p>地域包括支援センターと認知症初期集中支援チームでの役割分担が明確ではない。包括職員との兼務も多く、区別した活動ができないなどの、市町村からの意見がある。県としては、市町村の希望に応じて、アドバイザーを派遣し、初期集中支援チームの活動の方向性などを助言していただいている。</p>
<p>② 認知症地域支援・ケア向上 ○認知症カフェ R5.3) 設置41市町村、174か所 ⇒ R6.3) 設置41市町村、172か所 ○認知症ケアパス 【現状】 ・全42市町村のうち、40市町村で作成済み。 ・未作成の2町村は、令和6年度中作成予定。 【県の取組み（事業等）】 ・県内各市町村の認知症ケアパスの活用状況などについては、定期的に調査を実施し、その結果を提供している。 ○認知症地域支援推進員の活動状況 【現状】 ・全42市町村に、192名配置済（令和6年4月1日現在） 【県の取組み（事業等）】 ・推進員ネットワーク会議を開催。事前調査に基づき各市町村の課題を収集するとともに、課題解決に向けての情報交換等を行った。 [集合開催(一部ハイブリッド形式)]</p>	<p>○認知症カフェ 41市町村に設置済み。感染対策を実施しながら少しずつ再開が進んでいる。 ○認知症ケアパス ケアパスについては、未作成の町村が2町村、作成をしたが活用が十分でないところが、1町ある。県としては、『認知症ケアパスの手引き』を配布し、その作成や活用及び見直しについて、各市町村へ働きかけている。 ○認知症地域支援推進員 ・推進員の活動については、県として、推進員研修の積極的な受講を勧奨することにより、推進員のスキルアップを図るとともに、そのネットワークづくりを行っている。</p>

市町村の現状と県の取組（事業等）	評価・課題
<p>③ 認知症サポーター活動促進・地域づくり推進</p> <p>○チームオレンジ活動状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームオレンジ設置は17市町（R6年6月末）R6年度は6市町で新たに立ち上げ予定。コーディネーターの配置は未把握。 ・県若年性認知症支援センターで、本人・家族ミーティングを開催（オンライン） 	<p>チームオレンジ設置市町村は、徐々に増加している。引き続きコーディネーター研修を開催し、県内オレンジ・チューターによる講義や先進事例の紹介等を行い、市町村支援を実施していく必要がある。</p> <p>また、今年度より希望市町村に対し、オレンジ・チューターを派遣し、チームオレンジの設置促進及び既存のチームオレンジの活動促進を図る。</p>
<p>④ その他及び県独自の取組等</p> <p>○若年性認知症等</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県若年性認知症支援センターで、本人・家族ミーティングを昨年度に引き続き開催。 <p>【県の取り組み（事業等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年性認知症ネットワーク会議 ・若年性認知症就労ネットワーク会議 ・若年性認知症の就労支援に関する研修会 ・若年性認知症への理解に関する普及啓発物の作成・配布 	<p>昨年度は、全圏域を対象とした若年性認知症カフェとして、バスツアーを開催し、参加者からは圏域を跨いだネットワークの構築ができた等好評であった。</p> <p>今年度についても、全圏域を対象とした、若年性認知症カフェの開催を予定。</p> <p>各会議により関係機関と情報共有を実施。圏域によって実施状況に差があるため、好事例の共有等で活動を促進していきたい。</p>
<p>（総評・今後の方向性・今後重点的に取り組むこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域間の距離もあるため、認知症の方の体調や要望に配慮しながら、多様な方法にて認知症事業を遂行していく。 ・認知症地域支援推進員の質向上のため、情報共有の支援や先進事例の紹介等に取り組んでいく。 ・希望大使等と協働した普及啓発活動やピアサポート活動、チームオレンジ設置支援に取り組んでいく。 	

(2) 市町村支援に向けた取組

■ 市町村支援に向けた取組

(岐阜県)

標題	1. 認知症希望大使の設置 2. チームオレンジの設置に向けた伴走支援
具体的な内容	1. 今年度についても新たに認知症希望大使を委嘱する。 (岐阜県では初めての圏域、若年性ではない認知症、女性) 2. 希望市町村にオレンジ・チューターを派遣する。

■ 取組に至った経緯、背景、課題認識

1. 昨年度実施した、認知症希望大使への委嘱式(併せて丹野智文氏による講演会)の際に、参加者(約250名)に対し、アンケートを実施し、その際に認知症希望大使に興味関心がある方、適性があると思われる方が身近にいる方などをお聞きしたところ、今回の候補者の発見に繋がった。
2. 市町村によってチームオレンジの設置要件に関する解釈の違いや担当者の異動等により、新たな設置が進んでいないことなどを受け、チームオレンジ及び認知症の方への支援等を熟知したオレンジ・チューターを派遣することとなった。

■ 取組の成果、成果に至った要因等

1. 認知症希望大使の候補者の発見に繋がった。
(認知症希望大使が新たに委嘱されることで、地域(市町村)としても、サポーター養成講座やステップアップ講座等の講師として、依頼がしやすい。各講座の開催数が増えることによって認知症への理解者が地域に増える、結果としてチームオレンジの設置時の協力者が増加することを想定。)
2. 今年度新たに実施するため、現時点では成果なし。